

令和 2 年 2 月 25 日

教 育 長 様

|             |           |         |          |
|-------------|-----------|---------|----------|
| 代表者 校 園 名 : | 大阪市立福島小学校 |         | 校印       |
| 校 園 長 名 :   | 臼井 淳      |         |          |
| 電 話 :       | 64416003  | F A X : | 64416823 |
| 事務職員名 :     | 中山講一      |         |          |
| 申請者 校 園 名 : | 大阪市立福島小学校 |         |          |
| 職 名 ・ 名 前 : | 校長 臼井 淳   |         |          |
| 電 話 :       | 64416003  | F A X : | 64416823 |

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 研究コース                   |     |
| グループ研究B                 |     |
| 選定番号                    | 209 |
| 校 園 コード (代表者校 園 の市費コード) |     |
| 531060                  |     |

### 平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

| 1 | 研究コース         | コース名   | グループ研究B | 研究年数 | 新規研究 (1年目) |
|---|---------------|--|---------|------|------------|
| 2 | 研究テーマ         | 英語を使って、主体的にコミュニケーションを図ることのできる<br>子どもの育成  |         |      |            |
| 3 | 研究目的          | 大阪市小学校教育研究会英語部を設立し、大阪市の推進する「英語イノベーション」を具<br>体化するために、大阪市のスタンダードモデルとなる、英語・外国語活動の実践を研鑽を<br>進め、指導者の指導力の向上を図るとともに、より効果的な指導方法について研究を深め<br>る。   |         |      |            |
| 4 | 取り組んだ<br>研究内容 | <p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>1) 5月10日：大阪市小学校教育研究会に新たな教科としての英語部を設立するための準備<br/>会を組織し、研究テーマ・目的・組織体制・年間計画等についての協議をする。</p> <p>2) 6月4日：第1回研究員全体会を開催。英語部としての研究の方向性・年間計画について<br/>共有し、低中高部会に分かれて研究活動を進め、2月7日の総研にて公開授業を行うことを<br/>決めた。</p> <p>3) 7月20～21日：第19回小学校英語教育学会 (JES) 北海道大会に、英語部教員2名を派遣<br/>し、全国の取り組みの状況と評価についての資料・情報を集約しに行き、大阪市の取り組<br/>みが先進的であることを確認する。</p> <p>4) 8月8日：教育課程堅守会・学習指導基本研修会にて、英語部として参会者に模擬授業を<br/>通しての研修を行う。</p> <p>5) 8月30日：第2回研究員全体会を買いさし、低中高学年での研究授業に向けた指導案の作<br/>成と英語部としてのクラスルームイングリッシュのまとめをする。JESでの報告を受け、さ<br/>らに大阪市の取り組みを推進させていくことを共有する。</p> <p>6) 10月28日：第3回研究員全体会を開催し、指導案の最終確認と総研にむけた授業内容の<br/>検討を進める。</p> <p>7) 低中高部会での研究授業を開催：<br/>低＝11月12日すみれ小にて、教育センター一峰先生を招いての研究授業・討議会 (21名<br/>参加) 中＝11月 8日東中川小にて、ノートルダム学院小学校田縁眞弓先生を招いての研<br/>究授業・討議会 (26名参加) 高＝12月2日野中小にて、ノートルダム学院小学校田縁眞弓<br/>先生を招いての研究授業・討議会 (24名参加)</p> <p>8) 総研に向けたプレ授業の実施：12月23日菅原小にて、高学年部 1月17日歌島小にて、<br/>低学年部 1月23日宝栄小にて、中学年部を実施</p> <p>9) 2月5・6日：総研準備</p> <p>10) 2月7日：第35回総研1年次発表：本年度の研究内容や成果を紀要にまとめ、福島小学校<br/>にて (537名参加) 公開授業 (低・中・高) ・研究発表・講演<br/>： 全国小学校教育研究会山梨大会：教員1名を派遣</p> |         |      |            |

|    |                  |  |         |             |      |         |    |           |  |  |    |  |  |  |
|----|------------------|--|---------|-------------|------|---------|----|-----------|--|--|----|--|--|--|
| 5  | 成果・課題            | <p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<b>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</b>および<b>教員の資質や指導力の向上</b>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【授業研究会を通じたこれからの英語教育についての検証】<br/>英語部が研究・実践を深めるために、まず指導実践を共有し、目指す教育活動を創造していくことに努め、下記のような課題を共有し、部員の指導力の向上を図ることができた。<br/>①クラスルームイングリッシュを駆使して英語で授業を進めていくことで、子ども達に英語でのインプットだけでなくアウトプットについても積極的に取り組めるようになり、英語で指導することを基本とする。<br/>②英語を使ったコミュニケーションを子ども達が主体的に取り組むためには、何でも話せる・間違いが許される学級経営が基盤となる。<br/>③指導者が英語ができる出来ないで躊躇するのではなく、英語を使おうとするモデルを示すことで、子ども達も英語を使って自分の思いや考えを表現することができるようになる。<br/>④新学習指導要領の3観点での評価は非常に難しく、現状CAN DO評価で授業の振り返りを進めていくが、次年度以降パフォーマンス評価も含めた評価方法の研究が必要である。</p> <p>【総研1年次発表についての検証】英語部創立すぐに公開授業を進めることは、組織が円滑に運営できていない中では、難しさもあったが、次年度からの教科化に向けて、授業のあるべき姿をイメージしてもらうためには不可欠であると考え、授業公開に踏み切った。公開授業にかかわってのアンケート（有効回答数154）でも、98%は肯定的な回答であり、どちらともいえないが2%であり、否定的な回答は、0%であった。このことから、目標としていた、授業のあるべき姿を示すことができたのではないかと考える。</p> <p>【全国大会への派遣からの検証】本年度は、小学校英語教育学会と全国小学校教育研究会に教員を派遣し、全国の取り組みについて情報を得たが、新学習指導要領の具体化については、まだまだ全国的にみても進んでいるわけではない。今後もできる限り情報を集め、大阪市としての具体化に取り組んでいく必要がある。そのことから、全国組織に加盟し、そこで得た情報や具体的な授業・評価を通して、大阪市のスタンダードモデルの創造に取り組んでいく必要がある。</p> <p>【研究紀要のまとめ】本年度は、研究部内で、英語部の目指すべき授業の姿を共有するために、低中高での授業研究会を実施し、次年度からの新学習指導要領の内容を反映した指導案の作成に努めた。特に、評価の点で、日常の授業で取り組みが難しい、CAN DO評価のあり様について、紀要にまとめ、公開授業の中でもその取り組みの仕方について提示することができた。また、新しい評価の3観点を具体化したものを作成し、全市に向けて次年度以降の取り組みの参考になるものを提示できた。</p> <p>《まとめ》<br/>英語部を設立し、研究活動を何とかスタートすることができた。この一年は、大阪市の外国語・外国語活動・低学年からの英語教育の具体化を図るために、スタンダードモデルを創造することに努めてきた。結果、英語部員それぞれにとりくんできたことを授業を通して共有し、英語部としての取り組みにまとめ、部員それぞれのスキルアップを図ることができた。また、総研において、次年度からの新学習指導要領を具体化する、スタンダードモデルとなり得る授業を提案することができ、市内の小中学校の先生方に、指導のイメージをもってもらうことができた。</p> <p>《課題》<br/>①次年度から評価について早速取り組んでいかなければならないが、現場は授業に取り組むことで精いっぱい、文科省からの提案をこなしていただくのものとなっていないことが見受けられる。そのため、現場に対して、できるだけ早期に評価の具体化を提案していくことが必要である。<br/>②次年度からは、2種類の教科書を扱うこととなり、これまでのように教育委員会からの支援を受けられなくなり、各校で指導書を頼りに指導の具体化を図らなければならなくなる。そのために、担任が取り組める、外国語・外国語活動について、具体的な提案を進める必要がある。<br/>③先進的な取り組みをもとに、大阪市のスタンダードモデルを構築し、全市での取り組みへと広がる実践を進めていかなければならない。</p> |         |             |      |         |    |           |  |  |    |  |  |  |
| 6  | 研究発表等の日程・場所・参加者数 | <p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1" data-bbox="347 1765 1461 1962"> <tr> <td data-bbox="347 1765 459 1821">日程</td> <td data-bbox="459 1765 1070 1821">2 年 2 月 7 日</td> <td data-bbox="1070 1765 1238 1821">参加者数</td> <td data-bbox="1238 1765 1461 1821">約 537 名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1821 459 1877">場所</td> <td colspan="3" data-bbox="459 1821 1461 1877">大阪市立福島小学校</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1877 459 1962">備考</td> <td colspan="3" data-bbox="459 1877 1461 1962"></td> </tr> </table>   | 日程      | 2 年 2 月 7 日 | 参加者数 | 約 537 名 | 場所 | 大阪市立福島小学校 |  |  | 備考 |  |  |  |
| 日程 | 2 年 2 月 7 日      | 参加者数   | 約 537 名 |             |      |         |    |           |  |  |    |  |  |  |
| 場所 | 大阪市立福島小学校        |  |         |             |      |         |    |           |  |  |    |  |  |  |
| 備考 |                  |  |         |             |      |         |    |           |  |  |    |  |  |  |